



ICT 海外ボランティア会会報 No. 81

2018年6月2日(土)

URL: <https://ictov.jimdo.com> (2017年以降の分)

<http://www.ictov.jp> (2016年以前の分)

EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆特別寄稿

インドネシア・庶民に人気の GOJEK サービス

当会顧問

(一財)海外通信・放送コンサルティング協力

専務理事 牛坂 正信氏

◆海外実践マネジメント

今も継続・拡大する Smart・PLDT プロジェクト(6)

元 PLDT チーフオペレーティングアドバイザー

元 NTT アメリカ社長

現(株)ハイホーCEO 鈴木 武人氏

◆海外グラフィティ

ミュシヤの「スラヴ叙事詩」

「黒蜥蜴」一世相を映す鏡

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智氏

◆海外便り

スペイン・モロッコ俳句紀行(1)

北垣 勝之氏

◆第 35 回海外情報談話会模様

事務局

◆第 36 回海外情報談話会開催のご案内

事務局

特別寄稿

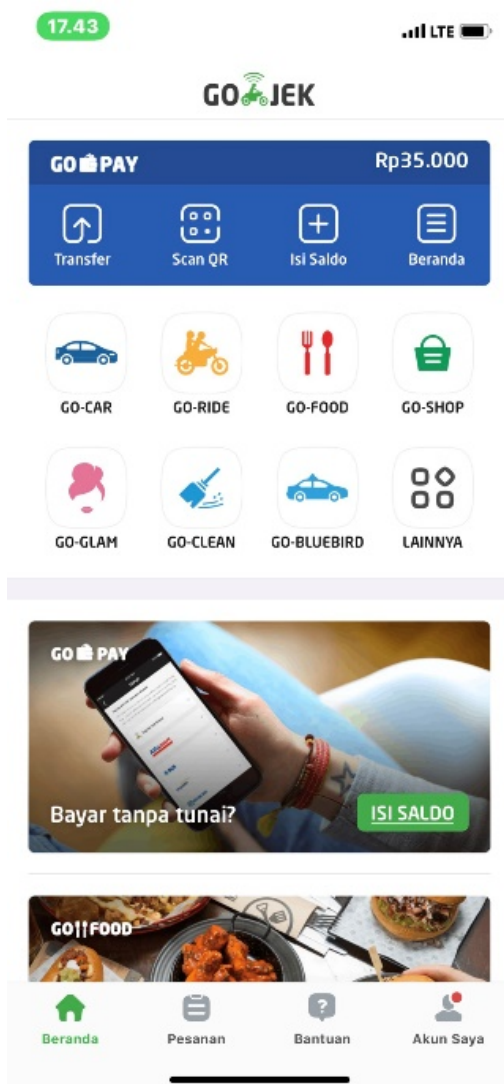
インドネシア・庶民に人気の GOJEK サービス

ICT 海外ボランティア会 顧問
一般財団法人 海外通信・放送
コンサルティング協力
専務理事 牛坂 正信

インドネシアでもスマートフォンの普及は目覚ましく、中国の新興企業の VIVO、OPPO、小米（シャオミ）などを中心に廉価版の販売合戦を繰り広げています。

このスマートフォンと「運送」を組み合わせたサービスが人気を呼んでいますので、それを紹介したいと思います。今回紹介するのは、「GOJEK」というものです（写真はそのアプリの画面例）。インドネシアには以前から庶民の足としてバイクタクシー（現地では OJEK と呼んでいる）が利用されてきました。OJEK は特定の貯まり場（と言っ

てもそこかしこにある）に利用者が出向いて乗るというスタイルでしたが、この「GOJEK」では、出発地と目的地を指定するだけで、料金が提示され近くにいる登録されたバイク運転手が受注、送迎し目的地まで運んでくれます。これが「GO-RIDE」で、料金は従来通りのまま利便性が向上し、利用が増えているようです。また、同様に自動車のシェアサービスとして「GO-CAR」もあり、こちらも人気があるようです。理由は料金が注文時に提示されること、かつ、従来型のタクシーに比べ格安であることです。近距離でも 3 割ぐらい安いようで、また渋滞しても料金が変わらないという安心感も人気の要因のようです（最近の都市部の渋滞はひどいものです）。遠距離では 1/2～1/3 の料金という事もあるようです。



面白いのは、この運送という基本サービスをベースに少額の食事や買い物の配達や掃除など出前サービスが続々と追加されていることです。例えば、「GO-FOOD」では、レストランやパン屋などから、店で注文するのと同じメニューを注文でき、これをバイク運転手が受注し指定の店で購入、自宅まで配達してくれます。バイク運転手への支払い額（料理等の費用に加え一回当たり 10,000Rp*程度の配達料）が注文時に表示されるので、支払総額も注文前に確認することができます。また、生活用品、例えば、洗剤やアクア（飲み水）などの買い物を依頼して配達してもらう「GO-SHOP」や自宅の掃除をお

願いできる「GO-CLEAN」、更にはスペシャリストが自宅で化粧や髪の手入れ等をしてくれる「GO-GLAM」などのサービスもあります。因みに、「GO-CLEAN」では 2 時間で 100,000Rp ぐらいだそうです。

支払は基本的には現金が中心ですが、「GO-CAR」では事前にこのアプリに入金しておき電子決済も可能となっています(写真一番上にある[GO PAY Rp35,000]という表示は、電子マネーが 35,000Rp 残っているという事を表しています)。因みに、現金での支払いより数 1,000Rp 安く支払えるようです。

インドネシアでは、シンガポールを拠点とする Grab も同様なサービスを始めています。このようなサービスは、庶民の需要に合わせてビジネスは拡大しているようです。庶民への利便性が増す一方で、問題も顕在化してきています。例えば、悪質な運転手による犯罪、特に女性利用者に対するものも起きているようです。他方、経済的に一番影響を受けているのは既存のタクシー業界のようです。この画面にもあるように「GO-BLUEBIRD」(現地のタクシー大手)を直接指定することもできる



ようです。ただし、料金は従来通りの距離と時間制の適用というようで、誰が利用するのか少し疑問も感じますが、セキュリティの面で利用する人もいるのかもしれない。また、「GO-CAR」で車を手配したら、BLUEBIRD が来たということもあったとのことです(勿論、料金は格安)。タクシー業界としては、いろいろ工夫して対抗策を打っているようです。また、政府は安全面の強化を図るために、運転手と車を登録制にすることも検討しているようです。

このようなサービスが成り立つ環境には、サービスを利用できる中間層が増えているという背景、生活習慣などを含めた文化的な要因などがあるものと考えられますが、バイクタクシーの運賃・手数料が格安であるということも注目です。このようなサービスは、日本へ直ぐ適用できるものではありませんが、少子高齢化が更に進む日本においても、地方だけでなく、都会でも形を変えて、このようなサービスが求められるような時が来るかもしれません(* 執筆時における 10,000Rp は凡そ 80 円前後)。

以上

<事務局注>ご寄稿者への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/特別寄稿/>

海外実践マネジメント

今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(6)

— 『NTT を巡るグローバル環境の変化』 日米貿易摩擦、AT&T 分割・再編、
そして NTT のグローバル化へ —

元 PLDT チーフオペレーティングアドバイザー
元 NTT アメリカ社長
現 株式会社ハイホー CEO
鈴木 武人

WLL 導入

携帯と国際通信の免許を得る為に義務として提供する固定回線サービスですが、1995 年頃の経済状態では顧客が料金負担に耐えられない、また当然発生する解約時に高価な加入者設備の撤去・転用も出来ない等、結果的に無駄な投資と成ってしまう問題が有りました。収入に見合った投資とするためには、加入者毎に \$ 2000 であった加入者系設備を十分の 1 くらいにする他はありません。ただし、開通式で用いた Smart が持つ 5MHz の 900MHz 帯は既には携帯通信で一杯です。



そこで、料金滞納等での解約時等に撤去・転用が可能な PHS 端末(WLL、\$200 程度)を利用する事としました。同国では利用されていなかった 1.9GHz 帯を WLL 用として規制当局(NTC)に申請し、無線を主体に構築する事としたのです。また、其の展開には、既に展開されていた移動通信網に融合させたものとして経済化を図りました。

同国で新たに免許を得た通信各社が一斉に建設を始め、これを見た既存の通信会社までが増設に転じ、まるで通信建設バブルの状況となってしまいました。Ericsson 社が Smart とエリア的にも競合する Digitel 社の契約も取った事から、同社の Smart 側の担当は現場での工事稼働や局外設備の確保に苦しむ事となり、種々遅れが生じ始めました。『最善を尽くす。夜も稼働している』等の報告の中、報告と違って Smart 担当の社員達がのんびりビーチで遊んでいるのが Smart 社員によって見つかったというスキャンダルがあり、計画の進捗を促すスウェーデンの本社との交渉の末に、遅れの為に生じていた未設置機器の契約枠を、固定設備から同社の DECT も一部導入する条件で PHS/WLL に替える事に合意できました。WLL の方式検討の中、ある商社の紹介で“セルラの父”と言われる Dr. Martin Cooper が設立した ArrayCom 社の製品の導入を図る事としました。彼は Motorola 社でセルラ概念を発明した人で、新製品では 4G/5G で導入される MIMO(空間多重、ビームフォーミング)技術を実用化して居り、これで PHS の問題で有ったカバー範囲の拡大と収容容量の拡大を目指したのです。当初 CPU 速度等心配もありましたが、加入者側のアンテナを電波の届き易い屋外に、また無線部分を軒下に設置し、これから固定電話機にアナログ結線、また電源は通常の携帯電話の充電器で済ませる等、非常に簡易に設置できました。また、電話機として公衆電話機も付け、これは村や部落

の集会所等に設置して好評を得ました。WLLの基地局も移動基地局と共用して設置する事で、地方部への展開にも効果的でした。

WLLは製品寿命が短く、瞬断もあって、固定網には向かない等の意見もありましたが、初めて通信のメリットを受ける人々には好評でした。既設や計画中の移動網をベースとする事で基地局の展開を含めた安価な網コスト、絶対的な加入者設備の安価なコストと再利用の可能性、さらに移動通信電話を本業とする Smart にとっては、いずれ移動通信電話に移行するとの確信から社内外の賛同も得て実施を急ぎました。クレームといえば、電源の破損と瞬断でした。瞬断は大雨の時は止むを得ない場合がありますでしたが、椰子の葉が伸びた事が原因であった事が多く、これを切りに行かせたり、顧客が自分で切ってくれたとかの笑い話もありました。某日本メーカは電源の破損は同国での商用電源の安定性の問題から来ており、同社の責任ではないと渋りましたが、他社のものは問題が出なかった事から、かなりの抵抗は有ったのですが、より柔軟な充電器に替えてもらいました。



需要のある所には迅速な開通が出来、また支払いが滞った際には設備の撤去が出来た事から、Smart に対する固定網展開の督促や脅迫じみた新聞報道は影を潜めるようになりました。勿論、この WLL は低トラヒックの電話に特化したもので、インターネットには適合出来ませんが、同国での高速インターネットのニーズが出るには尚 15 年以上を要し、またデータ通信も GSM の SMS が大流行、速度も GPRS が先行した事から問題とはなりません。なお、昨今は移動通信の重要な伸びが止まり、今はショッピングモール等の WiFi が真っ盛り、次には固定網による高速インターネットの需要が収入増に期待されているようです。

法人営業の開始

携帯電話を中心にした Smart 事業が安定化できたと判断されたので、次に法人用の通信網事業を開始しようと、NTT に別途の出資を願い Smart Multimedia Corp. を立ち上げました。今まで日本との通信に高価な衛星通信に頼っていた遠隔地で工事をする発電プラント会社やセブ島の反対側の造船会社が最初の顧客となってくれ、またマイクロの鉄塔をその敷地に無料で設置させて頂き、それに基地局も併設して喜ばれました。

1996 年の年明けに、線路土木担当から法人営業に転じた島根氏の案内で、マニラの南のゴルフ場の隣の工業団地に年始の御挨拶と、日本との専用回線開通のお祝いに訪問しました。所が、到着したホールで、背広を作業着に着替えるよう言われ、そのままマシンルームへ案内されました。何と、業務再開を明日に控えて回線開通できていないとの事でした。TDM を見ると同期が取れない旨のメッセージが出ていましたので、アナログ部を見ると ATT 不適で、早速これを調整するための ROM ライタの急送をマニラに依頼して到着まで半日待ち、調整しました。所が、それでも同期不良が続くので顧客 U 社本社の構成を聞いて、STDM を導入してもらったベンダーが TDM を提供しているのを知り、NTT が国際回線を提供する以前でしたので、そちらにキー局をお願いしました。KDD/Sprint/PLDT/Smart と切り分けしましたが解決にならず、結局、何と、信じられ

ない事に TDM メーカーから提供されたコネクタ内の配線誤りと判明しました。どうやら業務に支障を生じないで済ませる事が出来ましたが、日系企業の進出が著しい事とこの様な通信インテグレーションに関するサービスニーズを実感し、法人事業の立上げに自信を持つ事が出来、PLDT の買収に積極的となる契機でした。

手掛けたものに失敗例も幾つかあります。マニラはアジアから日本、米州への航路にあたる地理的特性から太平洋のハブとしての発展が期待されます。しかしながら、実態はシンガポールから韓国へ行ってしまおうとの話を商工会議所やロータリの方々から聞いて居ました。即ち、マニラに入港すると、その際の手続きに時間が掛かり過ぎる、不用と思われる関税が課される等ルールがハッキリしない問題があると言われていました。そこへこの分野で先進的な GE 社から EC を導入して簡易化、迅速化を行って国際競争力を増せばシンガポール並みの成長が期待されると想定し、GE と Smart の合弁会社を作りました。ところが、何事にも積極的なラモス大統領が任期を終え、エストラーダが大統領となり、運輸通信大臣(故人)が新たに指名されました。新大臣にマニラ港の恵まれた位置付けや問題点、展望等説明したのですが、全く興味が得られず、テーブルから拳銃を引っ張り出して磨き始めたのです。政府の許可・後押しが無ければ進められないプロジェクトですから断念の他はありませんでした。結果、Smart/GE からの出資は合弁会社の従業員の持ち株とする事で従業員の合意をとって撤退する事となりました。誠に勿体無い事をしたものです。

通信建設ブームに乗って建設を急いだ通信会社の幾つかは、建設の義務を果たした途端に倒産してしまいました。Smart は敷設の義務を果たしながら、経済性を保つモデルとする事が出来、資金を移動通信に傾注する事が出来る様になりました。(次号に続く)



<事務局注> ご寄稿者への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外実践マネジメント/>

ミュシャの「スラヴ叙事詩」

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智



ミュシャについては、アール・ヌーヴォーの時代の人物としか知らなかった。チェコの画家で、むしろ後半生は、祖国チェコの「歴史絵巻―スラヴ叙事詩」に心血を注いだ。今回の「ミュシャ展」、最終日は切符を買うのに30分、並んで入場するのに70分であった。

国立新美術館での開催であったが、壁一面の巨大な絵画が20点で、圧倒された。ミュシャと言えば、2004年の「プラハからパリへ 華麗なるアール・ヌーヴォーの誕生」の展覧会を観たのが自分にとっての全てであり、特に「ジスモンダ」にまつわるエピソードは、広く世に知られている。

1860年、チェコに生まれ、画家を志し、ミュンヘン美術アカデミーに学ぶ。その後、パリに出てきて、水彩画などで糊口をしのぐ。1895年、突如、奇跡が起こる。ほとんど伝説化したエピソードだが、ルネサンス座から、サラ・ベルナルが主演する「ジスモンダ」のポスター制作を依頼された1894年のクリスマスのことだった。新年1895年正月の4日からの公演にあわせて、「元旦からパリ中に貼りだしたい」というとんでもない注文だった。ミュシャにとって、何せポスター制作は初めてであったが、クリスマス休暇でデザイナーは他に誰もいない。「やるっきゃない!」。この事件は、ミュシャをして、一晩で売れっ子のポスター作家に押し上げたと同時に、サラ・ベルナルについても、それまで一定の評価を受けてはいたが、一気に世界一の舞台女優へと駆け上がった。

ミュシャに仕事が来るわ来るわ、ご飯のことを心配する必要は無くなった。一方のサラ・ベルナルも「クッションのきいた棺桶の中で寝る」という伝説や「聖なる怪物」とあだ名されるほどになった。これほどこのジスモンダは2人の運命を激変させたのだ。

しかし、である。ミュシャの後半生はまたしても大きな変化をもたらす。その動機は、1900年のパリ万博で、ボスニア・ヘルツェゴビナ館の内装を依頼され、スラヴ民族の歴史を調査したことのようだ。さらには、スポンサーがついた。これが実に大きい。およそ、本当に好きなことに没頭できる芸術家は少ない。「スラヴのナショナリズム」に興味を持ったアメリカ人の富豪チャールズ・クレーンが、1909年に資金援助を約束、1910年のチェコ帰国から20年間にわたる「スラヴ叙事詩」の制作がはじまった。前述したが、大きいものでは、縦6メートル、横8メートルにも及ぶ壁画で、テンペラや、油彩の物である。そのため、普通のアトリエでは足りず、チェコのモラフスキー・クルムロフ城の巨大な部屋のなかで作業がおこなわれた。作品は、”愛国的“なものばかりで、プロテスタントの宗教改革者「ヤン・フス」やドイツ騎士団を打ち破った「グリュンワルトの戦闘のあと」、そのものずばり「スラヴ民族の目覚め」などである。どの作品にも、オーストリー・ハンガリー帝国圧政下の民族の「怒りと情熱」が込められている。(完)

<事務局注>ご寄稿者への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外グラフィティ/>

「黒蜥蜴」－世相を映す鏡

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智

以前から観たいと思っていた「黒蜥蜴」の舞台を、とうとう観る機会に恵まれた。多くの著名な舞台俳優や女優がかかわってきたが、少年時代にこの作品を読んで、昭和三十六年に脚本を発表したのが、三島由紀夫なのだが、サンケイホールで上演された際、原作者の江戸川乱歩は、宣伝ビラに次のような寸感を記している。筋を説明するでもない、すべては、この中で表現されていると思う。

『黒蜥蜴』は戦前の私の多くの通俗連載長編の一つで、私の小説では唯一女賊ものである。美しい女賊と明智小五郎との、おそろしいトリッキーで、アクロバティックな冒険物語だが、この二人、追うものと追われるものの、かたき同士が愛情を感じあう。三島由紀夫君はその女賊と探偵との恋愛に重点を置いて脚色されたようである。筋はほとんど原作のままに運びながら、会話は三島式警句の連続で、子供らしい私の小説を一変して、パロディーというか、バーレスクというか、異様な風味を創り出している。」

さて、その三島由紀夫は、初演プログラムでこう述べている「私は少年時代に読んで、かなり強烈な印象を与えられた（略）私の劇化の重点は、原作ではごくほのかに扱われている女賊黒蜥蜴と明智小五郎との恋愛を主軸にしたことで（略）セリフもロマンティックで大時代的なものにした。現代の話でありながら、1920年代のジャズ時代のような味を出すことを狙ったのである。」

今回の舞台は、原作が発表された昭和九年の世相がよく反映されている。前年、満州事変が起こり、この年には5・15事件で軍人による首相暗殺などもあった。セリフはほとんど無いが、舞台に陸軍の将校を登場させている。

明智探偵事務所は、銀座。仮面舞踏会は新橋。豪商は大阪一の宝石商で、住まいは芦屋。宝石受け取りの舞台は大阪通天閣。誘拐事件の現場は、満州にチェーンのあったヤマトホテル。今ならさしずめ、探偵事務所は、新宿。仮面舞踏会は渋谷。豪商の事務所こそは東京・銀座で、住まいは田園調布。宝石受取場所は、スカイツリー、ホテルはフォーズンといったところか。また、受け渡しの対象となった高価な宝石の名前が「エジプトの星」ならぬ、より粋な「クレオパトラの涙」に変えられていた。

江戸川乱歩は、アメリカの推理作家エドガー・アラン・ポオをもじったものであることは、つとに知られている。日本の探偵小説の黎明期を支えた文学史上の重鎮である。

女主人公、黒蜥蜴は今回、女形の河合雪之丞が演じたが、初代水谷八重子、小川真由美、坂東玉三郎、松坂慶子、そして、人々の記憶に最も残るのが、おそらく、三島と親交のあった美輪明宏だろう。美輪は、繰り返して上演を重ね、演出、美術、衣装まで務めた。

世相を反映と書いたが、逆に庶民とは異なるごく少数の一部の富裕層は、意外と現在の間層に近い生活を送っていたかの意外な印象も受ける。それが、冒頭のこの一説である。

「この国でも一夜に数千羽の七面鳥がしめられるという、あるクリスマス・イブの出来事だ。」（完）

<事務局注> ご寄稿者への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外グラフィティ/>

海外便り

スペイン・モロッコ俳句紀行(1)

北垣 勝之

マドリッドからコスタ・デル・ソル経由でモロッコ周遊した。

1/19(Thu)成田から夜行便で出発

1/20(Fri)ホテルチェックイン後市内散策

1/21(Sat)マドリッド泊

1/22(Sun)特急でマラガへ、泊

1/23(Mon)バステイトアンへ、泊

1/24(Tue)シャウエンへ、泊

1/25(Wed)バスでフェズへ、泊

1/26(Thu)フェズ新旧市街散策(フェズ・エル・バリのネシ、アッタリーン・スーク等)、泊

1/27(Fri)列車でフェズ発カサブランカへ、泊

1/28(Sat)列車でカサボヤジャー経由マラケシュへ、泊

1/29(Sun)日帰り VELTRA ツアー(アイト・ベン・ハットゥ、ワルザードのカサバ等見学)、マラケシュ泊

1/30(Mon)バスでアガディールへ、泊



1/31(Tue)朝の海浜散策、大西洋に触れてからマラケシュへ、泊(ル・メディアン・エンフィス)

2/01(Wed)am. マラケシュ・メディア内スークなど散策、pm. タクシーでマラケシュ・メナラ空港へ、QR1395、翌02:00DOH

2/02(Thu)ドーハ乗換え5時間、ラウンジで休息、QR812 DOH07:10→22:30HND(マイカーにて深夜帰宅)

費用：総額：¥296,894(二人分)

(内訳)航空賃:92,480、交通費:66,248、宿泊代:101,032、飲食費:23,442、その他:13,692

自堕落の自国離れて自律旅

厳しさに敢えて身を置く修行かな

最近少々血圧が高く 150/90 ベースが続く。2、3年前は減塩など食事に気を付けて養生、かつ両手の交互タオルしぼり運動もして平常値内に収まるも、毎秋の健診ではいつも高めの数値に逆戻りする。血圧以外は正常域なのに。こんな馬鹿げた小心翼翼生活に決別して、厳しくも自由奔放な海外旅行に出よう。そして人間本来の生命力を喚起しよう。つまり人間の持つ自浄力、復元力の覚醒である。国内で規則正しい運動と散歩、栄養バランスの取れた食事をしては自堕落な人間ができるだけだ。夜討ち朝駆け、睡眠不足、暴飲暴食大いに結構、極限状態の中で本当の自分が判る。事実、無茶苦茶海外修行から帰ると血圧値は正常に近づく。胃腸も快調。要は鈍った身体に喝を入れ、自然の自分を取り戻すことだ。第1句は五七五頭韻句。

成田にてサクララウンジ出来上がり

出発前、空港の日航サクララウンジで一息入れる。人気落ち目の夜のエアポートは

エキゾチックな雰囲気がある。スパークリングワインで酔い、独特のカレーライスで腹を満たす。他の摘み食いは付け足しに過ぎない。食事と情緒を満喫、最早長途の苦難旅にわざわざ出かける必要もあるまい。出来上がったところで家に帰って寝れば最高だ。ドーハまでの12時間近い過酷なフライトを思えば、そんな怠惰な誘惑が頭をよぎる。

トランプに相場占う両替屋

マドリッドのバラハス空港第4ターミナル、三次元の複雑な通路を経て入国手続きを済ませ、荷物引き取り後バスでアトーチャ駅に向かう。ホテルは駅から徒歩15分のところ、チェックインして早速街歩きに出掛ける。辺りは再開発地域、広大な土地が未着手のまま、気温2~3度の寒風が容赦なく吹き付けて来る。手袋を取り出し15分ほど歩いたところに南部バスターミナルがある。急に人の往来が激しくなる。翌日のバス切符を手配、発着場所も確認、近くの電車駅からマドリッドの中心ソルに乗り込む。以前換金した辺りの両替屋で手持ちのUS\$を€に換える。トランプ効果でドル高の内に次回旅行資金を調達する。目論見は外れるかもしれないが外国為替はもともと賭けみたいなもの。¥・US\$・€は、その時々有利な通貨で融通すればよい。

スープメニューや出てきてびっくりモツナベに

まずは腹ごしらえと思いソル近辺を逍遙すれども、なかなか気に入ったレストランやバルが見つからない。と言うより午後4~7時という時間帯はどこ飲食店も休憩中、ランチは午後3時頃まで、ディナーは午後8時頃から始まるところが多い。寒い季節、たまたま温かそうなスープの看板が出ているレストランを見つけ、店員に尋ねれば営業中という。数人の年配男性もワインを飲んでいる。スープの辛くないことを確かめパエリヤと併せて注文する。ほどなくして出てきた熱々の肉入りスープは美味そう。でも何回かスプーンを口に運び食してみると、いわゆる肉は内臓物ばかり。脂ぎった赤い汁に黒い血の塊みたいなものも混じる。トライできるのもそこまで。不味いパエリヤだけ食べて羊頭狗肉の店を後にする。十分メニューを吟味しなかった当方に落度がある。もともと闘牛の盛んなお国柄、無造作な牛の内臓物食いなどお手の物であろう。

スペインにピカソ復習美術館

7年前にバルセロナのピカソ美術館を訪れ、パブロ・ピカソ(1881~1973)の斬新・進化の事績をじっくり見てきたが、今またそれを追認したくなりソフィア王妃芸術センター(Madrid)とピカソ美術館(Malaga)に足を運ぶ。前者のポイントは大作「ゲルニカ」、あらためて白黒のモザイク的表出に感銘を受ける。後者はピカソ生誕地の展示だけに、彼の生涯を通じた創作変転の跡を辿ることができる。いずれにせよ新時代を画した異才の苦悩と生き様に触れ、一人の人間価値を見出す思いである。一方、彼の中期以降バルセロナからパリへと活動拠点を移すに伴い、精神分裂的作品が多くなり前衛化傾向に突き進む。これも芸術の蘊奥を究めんと足掻き、呻吟する一連の道程だったのであろう。

懸崖に不朽の建屋宙づり家

クエンカにヤベラーノに來いと暇爺言ひ

今までスペインに3度通ったが見残しているところが多々ある。その一つクエンカに是非立ち寄りたく企図した。ここは懸崖の岩肌へべり付くように建てられた「宙づり

の家」で有名、「百聞は一見にしかず」とにかく訪れることにした。寒さのきつい季節だが天気は好い。バスターミナルから道を尋ねながらぶらぶら歩く。溪谷沿いの登坂に差し掛かる辺りからシンボルマークが見え始めた。道路整備ができていて観光客が三々五々続く。皆もの珍しそうに写真を撮りまくる。古い錆びた鉄製架け橋までが見所の佳境、あとは13世紀建立のカテドラルを中心に旧市街の要塞都市を散策しながら下山する。バスターミナルに戻ったところで一人の現地老翁(私とは一回り若いが年寄り臭い)と出会う。「クエンカを訪れるには自然が緑濃くなる夏場(Verano)が一番いいぞ、また来いよ」と愛想よく勧める。



クエンカに冷やかし探^{いぬ}犬^ぎ着店

街が死ぬ土日閑散店終い

クエンカに着いたのは土曜日の正午を過ぎた頃、街は賑やかに人の動きは多い。街中を歩いていてドッグペットの店を見つける。今までヨーロッパ各地を巡り犬飼族に出逢うこと多けれど、ドッグ用品の店を見つけることは珍しい。千載一遇、これは何をさて置いても中を覗いて見なければ、早速、愛犬のドレスの物色を始める。イタグレという独特な体型なのでピッタリ装着する服が中々見つからない。今まで家内が採寸、オリジナルのホームメイドにトライしてきた。もしレディメイドがあれば立派なお土産ができる。店主もあれこれ物色してくれたが、適切な物はやっぱり見つからず断念する。冷やかしに終わったことを謝し店を出る。やがてクエンカの商店街は営業時間終了と週末が重なりどこも閉店、事務所は勿論のことすっかりシャッター通りになってしまった。ショッピングにもタイミングがある。

意気盛ん熟年女一人旅

クエンカの街を歩き始めると、私たちに添いつ離れず歩調をとる一人のアジア系女性がいた。どうも行き先が同じ方向らしく片言の英語で話しかけて来た。やっぱり目的地は同じだ。こちら道路標識頼りに地元人に道を尋ねながらの歩みである。その動きを確認しながら彼女はついてくる。鬱陶しいので「道中ウィンドウショッピングしますので、どうぞ先に行ってください」とやり過ごす。目的を果たし、街歩きを終わってバスターミナルに戻る。すると程なくしてこの女性もマドリッドに帰るためバス乗り場にやって来た。もう既知の友人でもあるかのように声を掛けてくる。聞けばヨーロッパ旅行中の台湾人で台中に住み、ご主人は歯医者、息子も歯科医を目指して頑張っている由。これで彼女一人だけの旅の謎が解けた。明日はマドリッドからリスボンに飛び5泊、ついでポルトに移動、大いにワインを飲むのだと意気込む。ご立派！よくぞたどたどしい英語で単身世界旅をやるものだと感心する。好奇心いっぱい、未知の外国街歩きに乙女が目が輝く。齢のほどは50~60位の熟女である。(次号に続く)

<事務局注>ご寄稿者への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外便り/>

第 35 回海外情報談話会模様

事務局

第 35 回海外情報談話会が 2018 年 5 月 23 日(水)15 時～17 時、(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web TV 会議室において開催された。講師は土田英紀様(NTT ベトナム顧問)、演題は「ベトナムの市場動向と NTT ベトナムの活動について」であった。ベトナム国概要から、情報通信、社会インフラ、都市開発、ビジネスリスク、旅行・観光まで幅広く話され、質疑応答も活発であった。

以下にいくつかの話題を列挙する。

- ・自動車、食品、衣料品、スポーツ用品、流通、医療、保険、警備、ICT、建設・不動産、大学、法律・会計事務所、政府関連等、積極的な企業訪問を実施した。
- ・日系企業の進出は伸びているが、都市と地方の格差は大きい。
- ・本年 3 月 26 日、NTT と公営デベロッパー Becamex IDC Corp. は覚書を締結し、スマートシティ計画に取り組むこととなった。
- ・大宮アルディージャと連携し、サッカー関係の社会貢献活動を実施している。
- ・通信キャリアとしては、VNPT、Vietel、FPT、Mobifone があり、固定電話は普及率 6.3%、590 万加入で下降傾向、携帯電話は普及率 130%、1 億 2 千万加入で飽和状態である一方、ブロードバンドは普及率 8.1%、760 万加入で継続して上昇傾向である。
- ・NTT はハノイ地域の固定電話 24 万回線の BCC を 1997 年から 2012 年まで実施した。カバー面積はシンガポールと同程度であった。ホーチミンはフランステレコム、ハイフオンは Korea Telecom が同様に BCC により固定電話事業を実施した。
- ・ベトナムは電力、ガス等インフラ整備に力を入れている。また、ハノイ近郊、ホーチミン近郊に工業団地、スマートシティなどの都市開発が活発である。
- ・ベトナムの腐敗認識度数は 175 か国中 119 位であり、十分留意する必要がある。
- ・NTT ベトナムのハノイ事務所、東京事務所とも本年移転している。



質疑応答は講演の途中でも活発に実施され、“談話”会らしい双方向の刺激的なものとなった。ハノイとホーチミンの比較、日越大学、留学生・技能実習生、政府規制等、尽きないほどの質問・意見があり、講師から丁寧な回答があった。

<事務局注>講演資料は、講師のご好意により、下記サイトからダウンロードすることができます。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外情報談話会/>

お知らせ

第 36 回海外情報談話会開催のご案内

事務局

ICT 海外ボランティア会(ICTOV)による第 36 回海外情報談話会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙とは存じますが、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 日時：2018 年 7 月 20 日(金) 15 時～17 時
2. 場所：(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web TV 会議室
東京都品川区西五反田 8-1-14 最勝(さいしょう)ビル 7 階
JR 五反田駅から徒歩約 5 分(下図のとおり)
<http://www.jtec.or.jp/about/access.html>
3. 講師：神永 晋様(SK グローバルアドバイザーズ株式会社代表取締役、住友精密工業株式会社元社長)
4. 演題：「IoT 世界におけるセンサの役割」
5. 参加費：無料(会員制ではなく、どなたでも参加できます)
6. 申込方法：参加ご希望の方は、下記連絡先にご氏名及び談話会参加希望の旨をご連絡ください。なお、Web TV 会議室への参加ご希望の方はその旨ご記載ください。
<連絡先> ICTOV 事務局 info.ictov@network.email.ne.jp

☆IoT 世界におけるセンサの役割について、気軽に楽しく談話しながら、学び、考える機会です。乞うご期待！

(注) Web TV 会議室への参加方法は次のとおりです。

- ① 次のサイトで初回のみ、ミーティング用 Zoom クライアント(サイトの一番上にあるもの)をダウンロードし、インストールする(無料)。なお、Zoom はクラウドベースの Web TV 会議室システムであり、パソコン(カメラ付がよい)、スマホ、タブレットのいずれでも可能です。

<https://zoom.us/download>

- ② Web TV 会議室の案内が海外情報談話会開始 5 分前までにメールで届くので、メールで指定された Web TV 会議室に入室する。



会報お読みの方々へのお願い

当会の拡充とともに、会報の充実も図ろうとしております。

このため、会報をお読みになった皆様のご感想、ご意見、ご要望は、会報作成のみならず当会運営にあたって大きな方向付けに役立ちます。どうぞご遠慮なくお送りくださいますようお願い申し上げます。

<送付先> 事務局 info.ictov@network.email.ne.jp 又は

会報担当 村上勝臣 katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp

編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただきまして第 81 号が出来ました。ありがとうございました。

今回は、牛坂さんから特別寄稿をいただくとともに、鈴木さんから 6 回目のご寄稿、田上さんから 2 件のご寄稿のほか、新たに北垣さんからスペイン・モロッコ俳句紀行のご寄稿をいただきました。誠にありがとうございます。また、ご寄稿者への感想、意見、感動などございましたら、それぞれのご寄稿の下部に記載したサイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

発行： ICT 海外ボランティア会(ICTOV)

会報担当： 村上 勝臣(編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)

ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)